

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年9月16日（火）

2 確認箇所

- ・ Eタンクエリア（図1）
- ・ JAEA第2棟建設工事（図1）

3 確認項目

- （1）フランジ型タンクからのスラッジ回収作業の状況
- （2）JAEA第2棟建設工事の状況

4 確認結果の概要

（1）フランジ型タンクからのスラッジ回収作業の状況

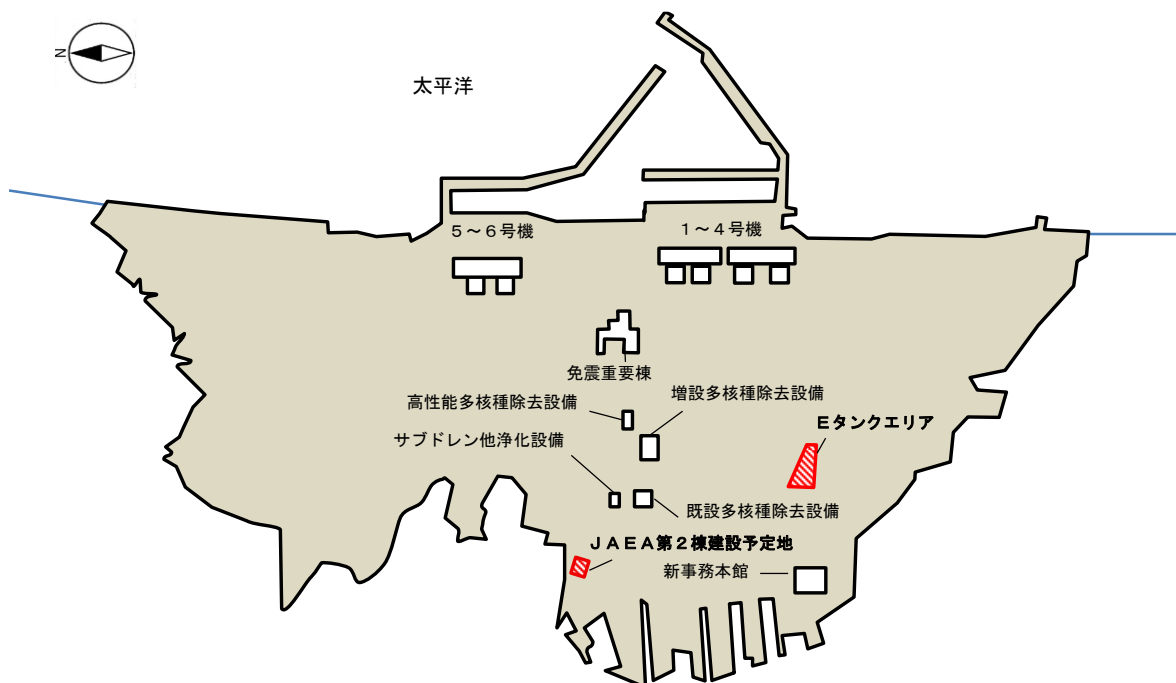
Eタンクエリアでは、フランジ型タンクの解体作業が進められており、これまでに全49基中48基の解体が完了している。残る1基のD1タンク（写真1）の底部残水（RO濃縮水）には、アルファ線放出核種が含まれていたことから、タンク内のスラッジ等の回収後に、タンク内壁を除染し解体を行う計画となっている。当該スラッジの回収作業は、令和7年1月9日に開始され、これまでも作業状況を定期的に確認しているが、今回もその作業状況を確認したもの。（前回確認日：令和7年6月4日）

- ・ 調査当日、スラッジの回収作業は行われていなかった。このため、当該タンクエリア内には、スラッジ回収用の金属製コンテナ及びこれを搭載するトラックはなく、固体廃棄物貯蔵庫への移送も行われていなかった。（写真2）
- ・ スラッジ回収用のバキュームポンプが設置されているハウス内はR α ゾーンに指定されており、空気中放射性物質濃度の低減を目的として、局所排風機が設置されていた。（写真3）
- ・ タンク近くに設置されたコンテナハウス内には、タンク内に設置されたカメラの映像を確認するためのモニターやハウス内の空気中放射性物質濃度を監視するダストモニタが設置されているが、今回は、回収作業が行われていないため、ハウス内部の確認については実施しなかった。
- ・ 確認した範囲では、タンク及び移送配管からの漏えい等の異常は認められなかった。
- ・ 当該タンクエリア内では、隣接するJ9タンクエリアのタンク解体が完了し、その解体作業（タンク外堰等）に伴って発生したコンクリートガラの破砕くずと作業に使用する重機（3台）がエリア内に仮置きされていた。（写真4）

(2) JAEA第2棟建設工事の状況

日本原子力研究開発機構（以下「JAEA」という。）は、事故で発生した燃料デブリ等の安全な取り出し等の作業推進に資するための燃料デブリの性状の把握を目的に、福島第一原子力発電所の敷地内に、放射性物質分析・研究施設第2棟（以下「JAEA第2棟」という。）の設置を計画している。JAEA第2棟の建設工事は令和7年3月31日に着工しており、県では設置工事の状況を継続的に確認しているが、本日もその確認を行った。（前回確認：令和7年8月18日）

- ・今回より、作業時間帯がサマータイムから通常時間帯に変更となっていた。工事の進捗としては、基礎工事で使用する柱材のほぼ全てが所定の床面に設置されており、それら各柱材の間を設計厚さに合わせコンクリートで塞ぐ外壁部分の構築作業段階であった。
- ・安全掲示板には作業毎に危険予知活動表が掲示されるとともに、作業員同士の声かけやフルハーネスの着用など安全対策が徹底されていた。
- ・作業時間帯は平常に戻っているが、現場通路の入口には熱中症対策として暑さ指数（WBGT）が引き続き掲示されているとともに、警戒レベルを表すのぼりが設置されており、作業中も容易に確認できる工夫がなされていた。また、現場事務所の出入口では熱中症対策のミスト扇風機も稼働していた。（写真5）



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1) D1タンクの状況①



(写真1-2) D1タンクの状況②



(写真2) スラッジ処理のための
Rαハウスの設置状況①



(写真3) スラッジ処理のための
Rαハウスの設置状況②



(写真4-1) Eエリア内でのJ9
タンク解体に伴う措置状況①



(写真4-2) Eエリア内でのJ9
タンク解体に伴う措置状況②



(写真5-1) JAEA第2棟建設
作業現場の安全掲示板



(写真5-2) 現場事務所出入口に
設置されたミスト扇風機

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。